

読む人が楽しみ 書く人も楽しむ
とっておきの心の手帳

見上げた空にウロコ雲が広がって
一瞬秋を感じましたがまだまだ厳しい
残暑、ひき続き熱中症対策を!

こちら情報部
yon.ichi.hachi.

創刊昭和55年5月5日
第472号
【通巻473号】

発行所
まんにちはち
418こちら情報部
〒418-0063
富士宮市若の宮町140(きうちいんさつ内)
TEL(0544)24-1515
E-mail: printkiuchi@space.ocn.ne.jp

印刷所
株式会社 きうちいんさつ

次号は
10月5日の発行です。
発行数 14,500部



鬼頭 和宏

今を見る⑥

お坊さん今昔

お盆と言え、ご先祖の魂をなぐさめる「行事」。八月に入ると、お寺さんが供養のため、自宅まで、やって来てくれる。今年も早々と、オートバイに乗って日曜日に来た。トントンと玄関の扉を叩く

音がする。あまりに暑くて、扇風機の風を浴びながら、夕食の支度を始めていた妻はあわてて、玄関へ急いだ。「ありがとうございます」と言う声が届く。私も誰だろかと、顔を出してみる。「勝さん、お寺さんよ」と言われ、

その姿を見てみると、頭はきれいに剃っている。衣裳も当然、僧侶姿だ。ところが、いつもの空気が感じられない。あつ、そうだ。あのメガネだ。下辺の縁が赤く輝いている。恰好がいいなあと、一瞬、魅かれてしまった。仏壇でのお経が終わった。私は即、「そのメガネ似合っていますよ」と言うと、「これ、外の日射しに当たると、サングラスになるん

ですよ」へえ、そうか。「家に入って、サングラスだと、失礼だど気になっていたんです」納得した自分がいた。それにしても、軽快なバイク姿、それに加えて、このメガネ。一昔前のお坊さんには考えられなかった。ご先祖さんも、驚いているに違いない。

望月 勝

田貫湖ふれあい自然塾 主催プログラムのご案内

①富士山森の動物と洞くつアドベンチャー
観光ではなかなか行けない富士山のおなかの中。約8千年前の噴火でできた長い歴史をもつ洞くつへ探検気分です。
9月22日(日) 午前の部 9:45~12:30
午後の部 13:15~16:00

②親子でタネタネ調査隊
〜タネずかんをつくって、タネはかせになろう!〜
お家の周りのタネを探したくなるほど、タネの魅力や面白さをたっぷりご紹介する秋限定のプログラムです。
9月28日(土) 9:45~12:30

◆いつでもできるプログラムのご案内 (開館から15:30まで受け付け)
探偵になって謎を解いたり、オリジナルの作品が作れます。
①たぬき湖なぞとき探偵事務所 ②オリジナルマイバック作り
③木のペンダント作り ④ポンプごま作り 随時実施中!

詳細・ご予約はTELにてお問合せ下さい。 これらのプログラムはホームページ上でも見ることができます。こちらから
TEL (0544) 54-5410 http://www.tanuki-ko.gr.jp/tanukiko/special

マンスリーエッセイ 310 国語辞典

昔に比べると比較的自由に時間を使えるようになった。無論、朝早く目が覚めてしまうので、一日の活動時間が長くなったのが大きな要因である。朝早く起る事の最大の課題はまだ夢の世界に遊んでいる女房の手前、大きな音で音楽を聞く事も楽器を演奏する事も出来ない点である。自ずとやる事は限定され、自分の部屋に籠り静かに読書に勤しむ事が多くなる。しかしながら、集中力のない私は数冊の本を読んでいると、すぐに飽きてしまう。そこで国語辞典の登場である。子供の頃から私は何故か辞書の類が大好きで暇さえあれば、良く目を通していた。電子辞書と紙の媒体が大きく違うのは在る項目を調べると、その周辺の言葉に自然と目が行く点である。その目的とは異なった言葉を知る事が出来、これはこれで楽しい。知っている様で知らない言葉の多さに気づき驚く今日この頃である。

角田 猛夫

静岡県立朝霧野外活動センター
プラネタリウム一般開放

1部テーマ「秋星座の探し方とお話」
秋の四辺形、ペガサス座、アンドロメダ座、くじら座など秋星座の探し方と神話。

2部テーマ「ムーン・フェスティバル」
中秋の名月、スーパームーン、月の満ち欠けなど、月に関するお話や天文現象を紹介します。

日時 9月16日(月・祝)
会場 静岡県立朝霧野外活動センター プラネタリウム室
時間 1部 受付12:45 上映13:00~13:40
2部 受付13:55 上映14:10~15:00
定員 各回90人(要予約)
参加費 1グループ・1家族500円
申込 電話

電話 0544-52-0321
メール asagiri@camping.or.jp
※詳細は HP: http://asagiri.camping.or.jp/

秋草のいろどり

むかしから木の花は春で、草花は秋とされている。春も夏も野に「花野」といえば、秋草の咲く野をさすそうです。

萩の花(はぎのはな)
芒の花(すすき)
桔梗(ききょう)
撫子(なでしこ)
女郎花(おみなえし)
藤袴(ふじばかま)
葛の花(くずのはな)

ところで新涼の風に誘われ、夏の熱さはまだまだ続く。
【日盛り(盛る)】盛暑日は水に代えて潤す。
因みに【草いきれ】は茂った夏草から立ち上る熱気や匂い。島根では火が燃えることをイキルといい、蒸すよくな熱気をイキルという。富山では体が熱く火照ることや陽気が蒸し暑いことをイキルといい、山陰で蒸気をイキリ・イケリ・ホケルという。そのイキルとは「熱気が立つ」の意である。――草いきれのイキレの場合は、草が熱されて立つ熱気や臭気のことである。熱気が立つの意のイキルは鳥取で火が燃えることをいうイカルと関係がある。火十火が激する様カツカの力を動詞化した形のピカエルがヒケル、イケル、イキルと転じて、火が激する、ひいては熱気が興り立つのイを表わしたのではないか。右記のホケリ(蒸気)という場合のホは「火」と同音である。

暑さのとどまることなく、翻って快雨(かいう)は、さっぱりと気持のよくなるような雨。「急雨」の意味で使われる快雨：歴史的な気象をしかり、人や作物にやさしい雨を「和雨」という――もとより、雨が万物をうるおすことから、仏法が衆生を救うことを法雨という。

野の風の一日暮るる野分かな
KEN III